

# アルツハイマー病の新規治療薬レケンビ® (一般名レカネマブ)について

当院は、新しい認知症の薬であるレケンビ®（一般名レカネマブ）を使用した治療を行っています。これまでの薬と違って認知症の原因となる脳内に溜まったアミロイドβというタンパク質を除去することによって症状の進行を直接抑制する効果が期待出来る画期的な薬で、「アルツハイマー病による軽度認知障害（MCI）」と「アルツハイマー病による軽度の認知症」の方が対象となります。

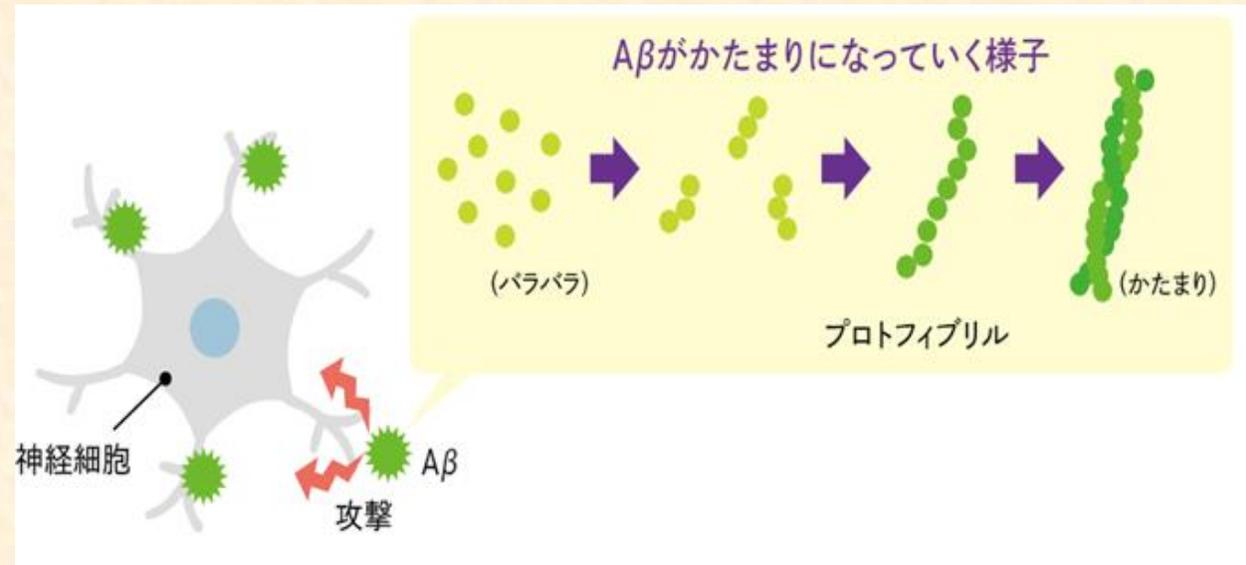
この薬は認知症の専門診療を適切に行えるための基準を満たした医療機関でのみ使用できる薬です。

# アルツハイマー病とは

脳におけるアミロイドβ (Aβ) と呼ばれるタンパク質の異常が病気を引き起こすと考えられています。

正常な状態ではAβは産生されてもバラバラのまま脳から取り除かれますがアルツハイマー病の人では塊をつくって脳の中に溜まります。

この塊が神経細胞を障害することで神経細胞の働きが落ち、数が減って、脳の萎縮が進むと考えられています。



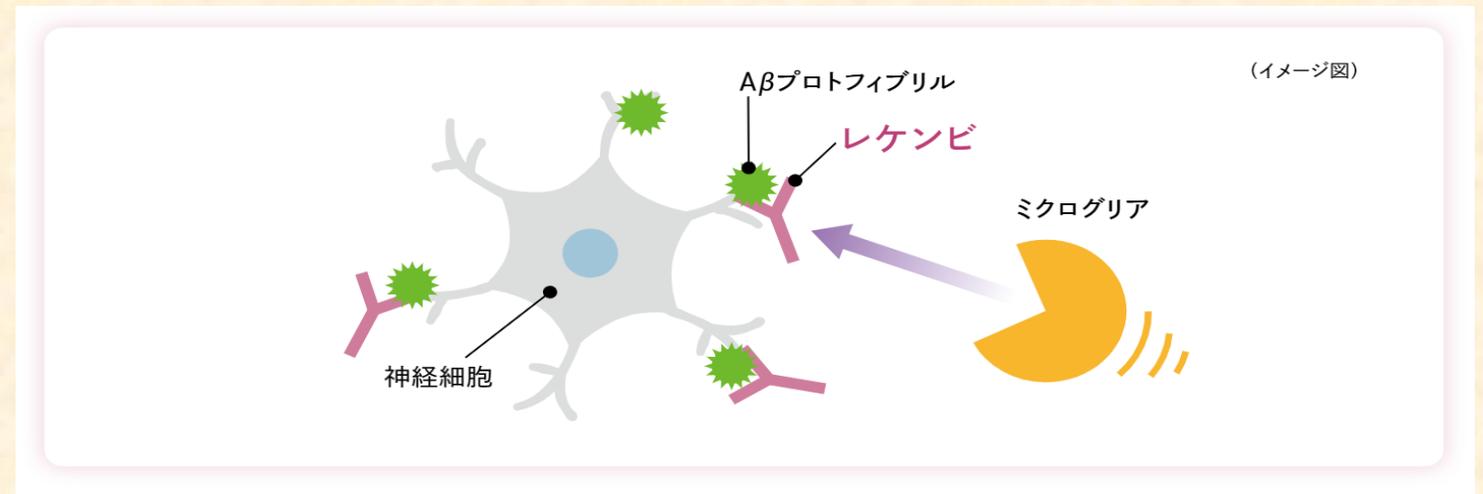
# 抗A $\beta$ 薬とは

アルツハイマー病の薬には今出ている症状を緩和するための薬と、病気の進行を遅らせるための薬があります。

抗A $\beta$ 薬はアルツハイマー病の原因物質にアプローチすることで病気の進行を遅らせるための薬で認知機能の低下を緩やかにすることが期待されています。

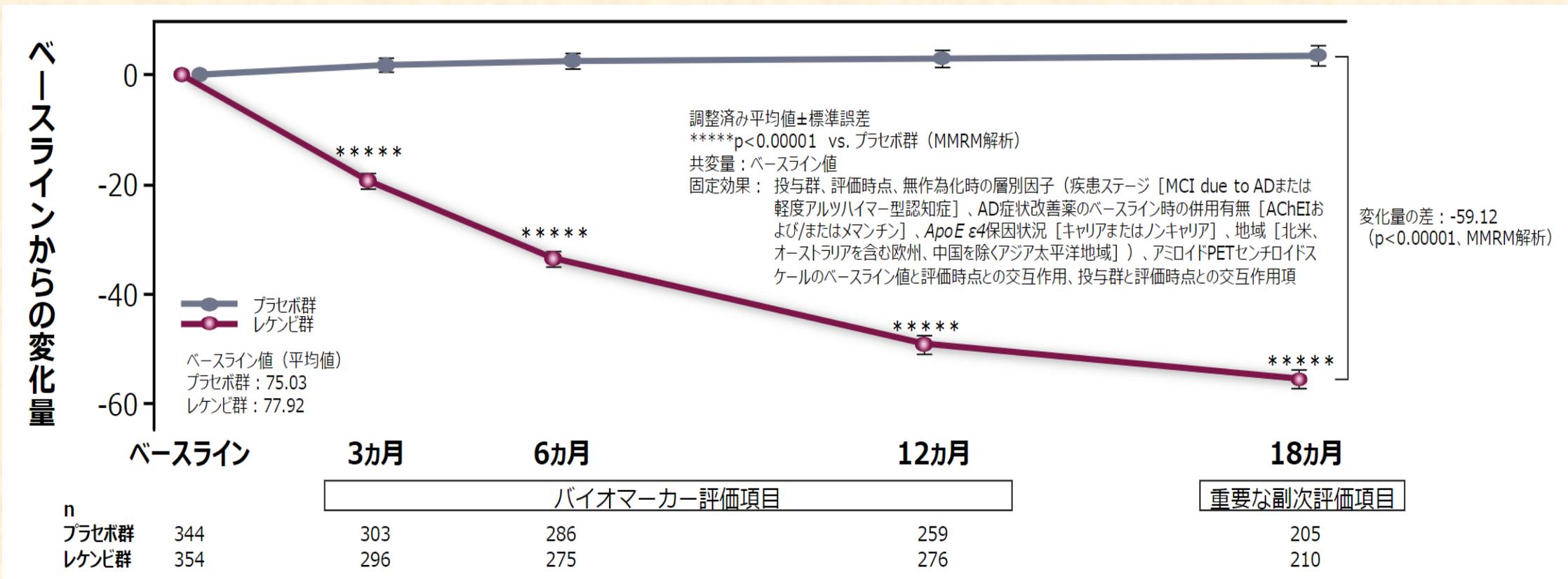
認知症の前段階であるMCI、軽度認知症の間にしか投与することができない薬剤です。

## レケンビ®

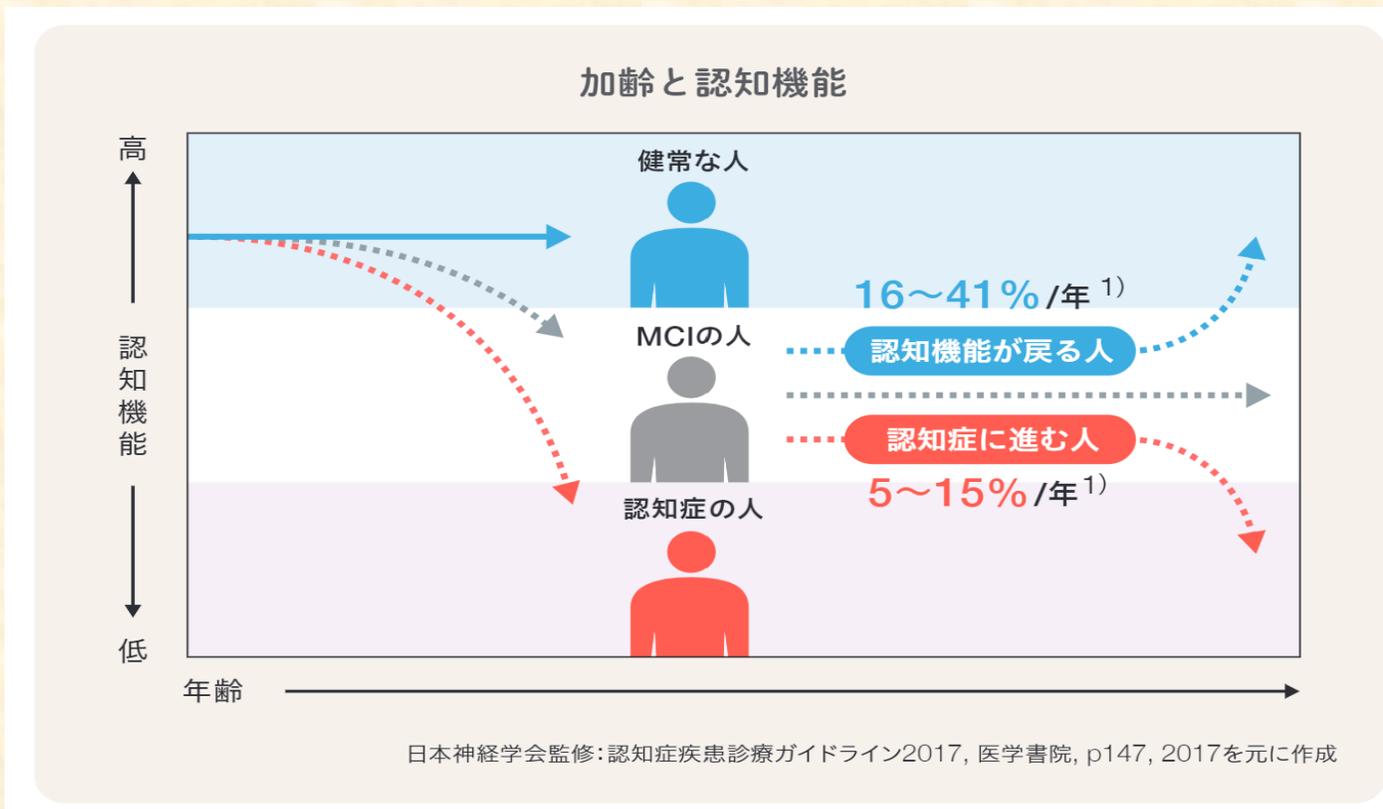


# 抗Aβ薬とは

投与によって脳内のアミロイドβを減少させます

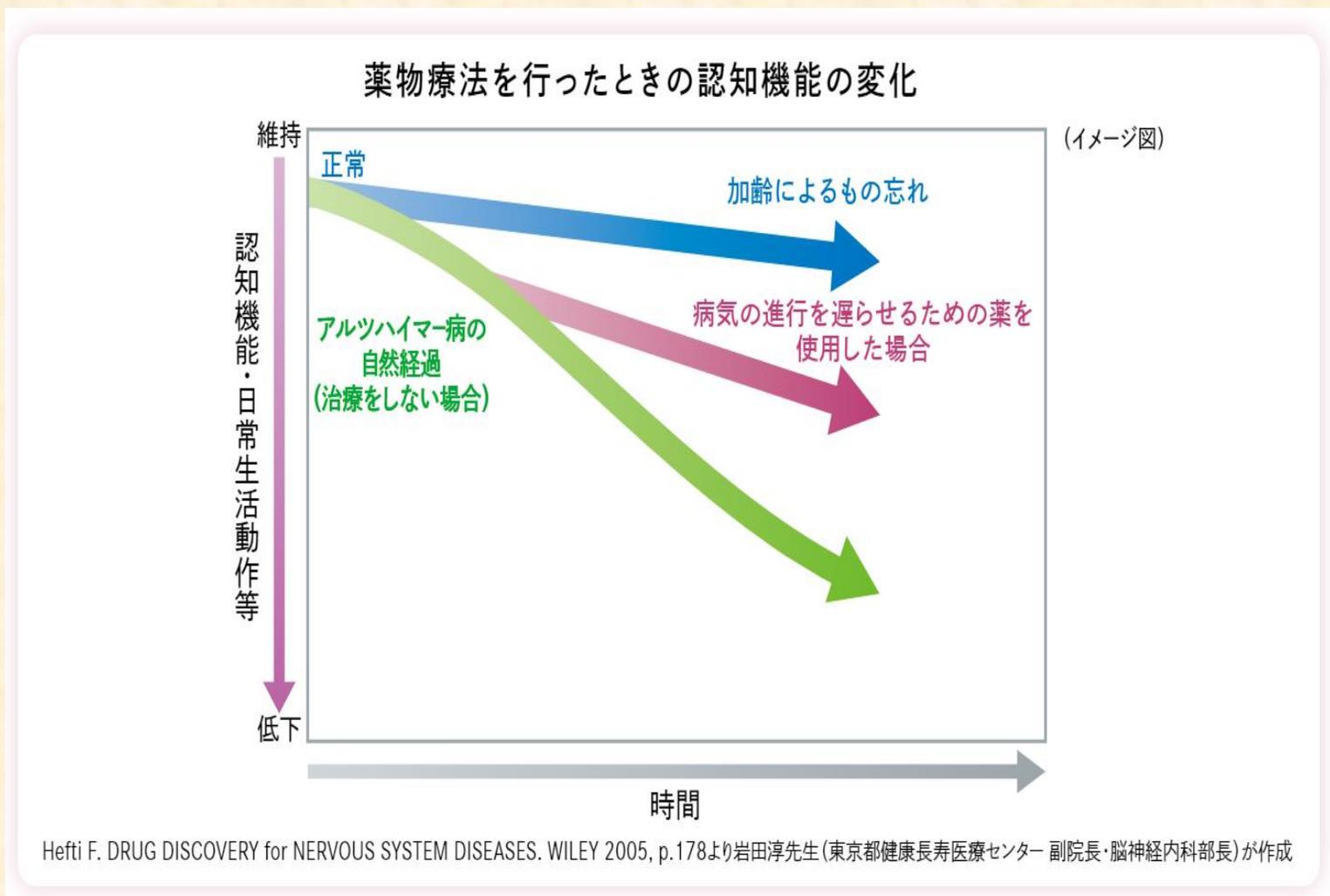


# どのような効果が期待できるか (MCI)



抗Aβ薬で今の状態を維持している間に生活習慣の改善等を行うことで認知症への進行を抑制できる可能性が高まるかもしれません。

# どのような効果が期待できるか



認知機能障害の悪化が有意に（18ヶ月で27.1%）抑制されたことが報告されています。

# どのような効果が期待できるか

日常生活の維持効果や介護負担の軽減効果によって、ご本人とご家族の今の生活を守ることが期待されます



# 注意をすること

## ▶ 点滴に伴う反応

点滴で薬剤を投与した後に起こる反応で、頭痛、悪寒、発熱、吐き気、嘔吐などの症状があらわれることがあります。これらの症状がでたときは、医師・看護師に必ず伝えてください。



## ▶ アミロイド関連画像異常（ARIA：アリア）

脳のむくみ、小さな出血、出血した血液が固まり付着することが報告されています。ARIAが起こっても、ほとんどの場合症状は出ません。

まれに頭痛、錯乱、視覚障害、吐き気、めまい、歩行障害などあらわれる場合があります。このような症状があらわれた場合は、すぐに医師に連絡してください。

ARIAが見つかった場合、MRI検査を行い重症度の確認を行います。

重症度によって治療を中断するケースがあります。

# 抗Aβ薬の費用

ひと月当たりの薬代は約33万円ほどです。 ※収入・体重・年齢により薬代は変わるため概算です。



高額療養費制度を利用すると…

自己負担額は57,600円になります。

また、4回目以降は多数回該当の制度により

上限額が44,400円となり

さらに負担が軽減されます。

# 治療を受けるには？

- まず当院脳神経内科、神経精神科、脳神経外科のいずれかの外来を受診していただきます。かかりつけ医がいる方はかかりつけ医にご相談いただき受診予約をおとりください。かかりつけ医がおられない方は当院の予約センター（TEL 018-833-1122）にご連絡ください。受診日のご相談をさせていただきます。
- この薬剤による治療にあたっては、もの忘れなどの症状があり、その原因がアルツハイマー病であることを確実に診断することが「最適使用推進ガイドライン」で定められています。このため医師の診察、神経心理検査、血液検査、MRI検査などを数回に分けて受けていただきます。特に初診時はご本人の日常生活の様子をよくご存じの方と受診してください。これらの検査でレケンビ<sup>®</sup>による治療の対象となりうるか、安全に治療を受けて頂くことが可能か否かを判定します。そのうえで脳内にアミロイドβが蓄積していることを確認するため、脳脊髄液検査またはアミロイドPET検査のいずれかを受けていただきます。アミロイドβの確認は必須であり、検査の結果、アミロイドβの蓄積を確認できなかった場合、この薬剤による治療は適応外となります。